

## イザヤ書59章1-2節 「聞かれない祈りから、聞かれる祈りへ」

### 1A 祈りを聞く能力のある神 1

#### 1B 短くない主の御手

##### 1C アブラハムの祈り

##### 2C パウロの確信

#### 2B 近い耳

##### 1C バアルの預言者とエリヤ

##### 2C 祈り終る前から聞かれるエリアザルの祈り

### 2A 仕切りとなる罪 2

#### 1B 神の御顔から離れたアダム

#### 2B 神から切り離されるキリスト

#### 3B 悔い改める者に来られる贖い主

## 本文

イザヤ書 59 章 1-2 節を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、イザヤ書 57 章まで来て、今日、58 章から 60 章までを一節ずつ午後礼拝で読んでいきます。今朝は 59 章 1-2 節に注目します。「見よ。主の御手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて、聞こえないのではない。あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」

今、イスラエルの人たちが祈りを捧げています。バビロンにおける捕囚生活の中で、その苦しみと屈辱の中で嘆き悲しみ、祈りを捧げていました。けれども、祈りが聞かれているように思われません。預言者イザヤは、それで主からのこの言葉を語ったのです。主が救えないから、あなたがたが救われていないのではない。また主の耳が遠いから、あなたの祈りが聞かれているのではない。主は救うことができになるし、祈りも聞くことができる、その能力はある。しかし、あなたの罪と咎が神とあなたがたの仕切りとなっているのだ、ということです。

私のはっきり覚えている、聞かれなかった祈りと、聞かれた祈りがあります。私は元々、祈るようなタイプではありませんでした。超自然的なことを信じるような子供ではありませんでした。けれども、自分の部屋が家の二階にあって、ベランダにそのまま出られるようになっていました。小学生の時、そのベランダに、自分の作った、てるてる坊主を吊るしたのです。運動会だったのでしょうか、遠足だったのでしょうか、何か天気になってほしい日があって、お祈りしたのです。ところが天気は雨でした。私は、「祈ったのに、祈りを聞かないとは何事だ。」と非常に怒って、一切祈るのをやめたことを覚えています。祈ったところで聞かれる保証はないと思いました。

けれども、本当に聞かれた祈りがありました。それは大学生の時です。サークルで、英語討論会の大会がありました。私は一年生で張りきって勉強しました。二人一組で競うのですが、私たちは最下位になりました。私はショックでした、おまけにパートナーも非常に怒っています。私があまりにも非協力的だったからのようです。私は、大学も冬休みになり、実家に戻り、近くの教会のクリスマス礼拝に参加しました。その時は、「世の暗闇に來られた光としてキリスト」について話していました。その時は、良いお話したと思いましたが、そのままその実家の小学校の時と同じ部屋に戻りました。そして今度は、ひざまずいて、頭を垂れて祈りました。自分の人生を振り返り、そして頑張っているつもりなのに、こんな無様な結果、友達にも迷惑をかけてしまいました。「神さま、あなたが全てを造られた方であり、すべてを支配しておられるなら、私は生まれた時から無視していたこととなります。ごめんなさい。」そうすると、とんでもないことが起こりました。頭のとっぺんから足のつま先まで、誰にも見せられないような惨めな自分をすっぼりと包み、自分を受け入れ、愛しておられる神がおられることを知ったのです。涙を流して、「ありがとうございます。」と祈りました。

これが二つのはっきり覚えている祈りです。自分の願っていることを言ったけれども、聞かれなかった祈りがあります。けれども、自分が神に背を向けていたこと、無視していたことを祈ったら、その直後に聞かれた祈りがあります。神は祈りを聞かれないことがあります。実は、祈ってほしい祈りがあり、敢えて祈りを聞かないことにより、祈ってほしい祈りへと導かれることがあります。

## 1A 祈りを聞く能力のある神 1

### 1B 短くない主の御手

初めに、「見よ。主の御手が短くて救えないのではない。」とあります。神は、天地を造られた方です。無から有を造られた方です。何も無いところに何かを生み出すということは、人にはできないこと。けれども、神にはできます。そして、神は実に、死者を甦らせる力まで持っておられます。

### 1C アブラハムの祈り

ローマ 4 章 17 節以降に、不可能を可能にされた神の姿が書かれています。アブラハムが 99 歳、妻のサラは 89 歳でした。しかし主は、そのサラから子を与えると約束されました。アブラハムには、神の約束がありました。彼を外に連れ出して、夜空の星を見せて、「あなたの子孫はこのようになる。」と言われました。彼はそれを信じました。しかしその時は既に 80 歳ぐらいです。85 歳の時に、サラの女奴隷ハガルを通して子をもうけました。イシュマエルが生まれましたが、イシュマエルが 13 歳にもなって、これで後継ぎも安泰だと思っていた頃に、「イシュマエルではない、サラから生まれる子がそれなのだ。」と神は言われたのです。

それでこう書いてあります。ローマ 4 章 18 節からです、「4:18-21 彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこのようになる。」と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためでした。アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだは死んだも同然であることと、サラの胎の死んでいることとを認めても、その信仰は弱りませんでした。彼は、

不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。」死んだも同然の子宮から、サラが子を宿しました。主の救いの手はこのように短くないのです。

## 2C パウロの確信

そして私たちの主イエス・キリストは、ご自身が嘆きと涙をもって祈られた祈りに、自分が死んでも救われるように、つまり死んでも甦るように捧げる祈りがありました(ヘブル 4:7)。そして事実、主は三日目に甦られたのです。パウロは、この方を信じる者にも全能の力が働くことを教えています。「また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ…(エペソ 1:19-20)」私たちは、死んでいるのに人を生かす力を神に期待することができます。

そのため、パウロはこのようにも言っています。「3:20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、…」私たちの願うことを、私たちが願っている以上にならえてくださる方だと言っています。

## 2B 近い耳

### 1C バアルの預言者とエリヤ

そしてイザヤは、「**その耳が遠くて、聞こえないのではない。**」と言っています。主は祈りを聞かれる方、聞くことのできる方です。イスラエルの国が、カナン人の神バアル信仰に陥ってしまった時のことです。神の預言者エリヤが、カルメル山でバアルの預言者 450 人を集め、イスラエル人の前で挑戦状を突き付けました。祭壇をそれぞれ用意して、そこに薪を載せ、雄牛を切り裂いたのを置き、それぞれの神の名を呼びます。それから火をもって答える神、そのいけにえを火で焼く神が、本物の神だと言いました。それでまず、バアルの預言者 450 人が、朝から真昼までバアルの名を呼んで叫びました。ところが、何も答えがありませんでした。彼らは踊り回りましたが何の効果もありません。エリヤは、「どこかに旅に出かけたのかもしれないな。」と嘲りました。そして彼らはますます大声で叫び、剣で槍で血を流すまで自分の身を傷つけました。けれども、何の声もありませんでした。

それでエリヤは、天地を造られたイスラエルの神、ヤハウェの名によって祭壇を建て直しました。雄牛を載せた後で、なんと四つのかめに水をいっぱい満たして、それを祭壇の上にかけるように命じました。祭壇の周りに溝を掘っていたのですが、その溝にも水がいっぱいになるほどでした。そして祈りました。「1列王記 18:36-37 アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのしもべであり、あなたのみことばによって私がこれらのすべての事を行なったということが、きょう、明らかになりますように。私に答えてください。主よ。私に答えてください。この民が、あなたこそ、主よ、神であり、あなたが彼らの心を翻してくださること

を知るようにしてください。」すると、なんと、火が降ってきて、いけにえ、石、地面の土に至るまで焼き尽くし、溝にあった水もなくなってしまいました。このように、主は祈りを聞かれます。

### 2C 祈り終る前から聞かれるエリエゼルの祈り

そして、聖書には祈りをささげ終える前に、その祈りを聞かれるという場面も出てきます。アブラハムの僕エリエゼルが、イサクのお嫁さんを探しにアブラハムの親戚の家のところまで長旅に行かせました。そして彼は、泉のそばに座り、祈りました。「創世 24:13-14 ご覧ください。私は泉のほとりに立っています。この町の人々の娘たちが、水を汲みに出てまいりましょう。私が娘に『どうかあなたの水がめを傾けて私に飲ませてください。』と言い、その娘が『お飲みください。私はあなたのためにも水を飲ませましょう。』と言ったなら、その娘こそ、あなたがしもベイサクのために定めておられたのです。このことで私は、あなたが私の主人に恵みを施されたことを知ることができますように。」そうしたら、この祈りを言い終わらないうちに、リベカという娘が水瓶を肩に載せて出てきました。そして、リベカはエリエゼルに水を飲ませただけでなく、らくだ十頭にも水を汲みに行ったのです。このように主は祈りを聞くことができるし、直ぐでも聞くことができになります。

### 2A 仕切りとなる罪 2

では何が問題なのか？ 2 節には、「**あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。**」とあります。そうです、神に対する罪が仕切りとなって、祈っても遮られるのです。この箇所の手前、58 章には断食をして祈っているけれども、主は祈りを聞いてくださっていないことを嘆いている箇所があります。けれども彼らは、断食と祈りという行為はしていますが、心の思いのむくまま自分の好きなことをして、自分の雇っている者たちを酷く取り扱ったり、互いに言い争いをしていたりしていました。祈っていることは祈っているけれども、形だけで、神との生きた関係の中で祈っている訳ではなかったのです。

### 1B 神の御顔から離れたアダム

自分の罪が神との仕切りになるとはどういうことなのでしょう。神が初めに造られたアダムは、神から命じられていた、取って食べてはならないという善悪の知識の木の実を食べてしまいました。蛇がまず妻のエバを惑わし、そしてエバがその実をアダムに与え、夫も食べました。すると、自分たちが裸であることを知り、いちじくの木の実で腰を覆いました。

そして、これまでと同じように主がその中に入って来られました。「創世 3:8-10 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間を身を隠した。神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」主が彼らから離れたのではありません。アダムが、自分が裸で、それで聖い神に触れるのを恐れて、それで退いて隠れたからです。神が彼らから離れたのではなく、アダムが神か

ら離れたのです。これが罪のなせる業です。罪が仕切りとなったのです。今ここで、「あなたは、どこにいるのか。」と言っている神の声があります。これを警察官が犯人を捕まえるためのような声ではなく、子を失ってしまった父の嘆きの声として聞かなければいけません。

このように、私たちの罪が仕切りとなって、神の御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしているのです。バビロンに捕え移される前のエルサレムに、エレミヤという預言者がいました。ユダの民は、主から目を逸らし、自分の心の好きなように自分勝手な神々を拝んでいました。そして、主の願っておられないこと、悲しむようなことを行いました。貧しい人を虐げ、富に溺れ、性的不品行にも陥っていました。そして神は、エレミヤにエルサレムにバビロンが攻めてきて、彼らを殺し、残りの者をバビロンに捕え移すと語っておられました。エレミヤは祈りました、必死に祈りました。「主よ、そんなことはしないでください。エルサレムにそのような恥辱を与えないでください。」しかし主なる神は、こう言われたのです。「エレミヤ 15:1 たといモーセとサムエルがわたしの前に立っても、わたしはこの民を顧みない。彼らをわたしの前から追い出し、立ち去らせよ。」モーセもサムエルも、主の前に祈って、主が大いにその祈りを聞いてくださった預言者です。どんなに偉大な信仰の人が祈ったところで、わたしはこの民を顧みないと言われるのです。

詩篇 66 篇 18 節に、「もしも私の心にいたく不義があるなら、主は聞き入れてくださらない。」とあります。私たちは祈りに対する考えを直さないといけません。祈りというのは、私が冒頭でご紹介したような、てるてる坊主に祈願するようなものではないのです。つまり、自分が今、感じていること、自分が欲していることを、門前の小僧のように言いつけてそれを行ってくれるようなものではないのです。父に対して子が願うようなものが、真の祈りです。父が子を愛して、子が父に従って、その父の愛と子の従順の中で、子が願うことを父が聞いてあげるようなものです。父が子をよく思っただけであげるその関係から流れ出てくるようなものが祈りなのです。ですから、子が父に反抗している、言うことを聞かないでその関係に傷が生じている時に、その美しい関係は壊れてしまっているので、そこから祈りとその答えが流れないのです。神は全知全能で、先ほど見た通り、無から有を生み出し、死者を甦らせることのできる力を持っているのも関わらず、です。

## 2B 神から切り離されるキリスト

そして、神にはただ独り子がおられました。永遠の昔からおられ、父なる神のふところには、独り子の神キリストがおられました。この方の願いは、父はすべて聞かれました。なぜなら、子はすべて父の言われることを聞いていたからです。しかし、なんと父なる神は御子キリストをご自身から切り離すことを行われました。イエス様は、十字架に付けられる前夜、ゲッセマネの園で祈られました。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください。(マタイ 26:39)」父なる神のみこころ、その願われていることはイエス様が十字架刑に処せられることだったのです。

十字架の上でイエス様は祈られました。「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ」これを訳すと、「わが

神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」という意味です(マルコ 15:34)。イエス様が父なる神から引き離された瞬間です。永遠の昔から父のふところにおられた子が、引き離された瞬間でした。なぜなら、私たちの罪と咎を、身代わりになって受けてくださったからです。父なる神は、私たちと神の仕切りとなっている罪を、御子の上において、御子が引き離されることによって、私たちをご自身のもとに引き寄せようとされています。

### 3B 悔い改める者に来られる贖い主

イザヤ書に戻りますと、59 章はこの後で、どんなに嘆いて祈っても、光が来ない、暗闇があると告白しているイスラエルの民の姿があります。そして、自分たちが頭からつま先まで、その口も手もみな、罪を犯してきたことを悟ります。そして、「私たちのそむきの罪は、私たちとともにあり、私たちは自分の咎を知っている。(59:12)」と、自分が罪のある者、罪を犯した者だと言い表しています。その時に、主は祈りを聞かれます。その汚れに満ちた彼らを、そのまま受け入れて、その罪を取り除き、赦して下さり、清めてくださるようになさいます。そしてこのようにイザヤは預言しました。20 節です、「しかし、シオンには贖い主として来る。ヤコブの中のそむきの罪を悔い改める者のところに来る。」罪を悔い改める者のところに、罪を赦す方、罪を贖う方として来てくださいます。悔い改めるとは、神のところに立ち帰ることです。これまで自分の好きなようにしていたところから、神の前に出て、この方に自分を明け渡すことです。思いを変えることです。そうすれば、主は、キリストが身代わりに死んでくださったその代償をもって、私たちの罪を赦してくださいます。

使徒ヨハネは教えました。「もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。(ヨハネ 1:8-9)」私たちが必ず聞かれる祈りがあります。それは、自分の罪を言い表すことによって、悪から清めていただくという祈りです。自分に罪はないと言っているのであれば、罪はそのまま残ります。しかし、言い表すならば主は赦して下さり、清めてくださいます。そして、光の中に入ることができます。そして、神の愛が注がれます。神の愛の中に留まるとき、神の命令を守りたいと願っている時、その捧げる祈りには力があります。全能の神の御心が、自分を通して流れ出ます。